

# 武蔵野市第五期長期計画策定 圏域別市民会議（東部地区） 議事要録

- 
- 日 時 平成 23 年 10 月 21 日（金）午後 7 時 00 分～午後 9 時 05 分
  - 場 所 武蔵野商工会館 4 階 市民会議室
  - 出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、  
小竹佐知子委員、近藤康子委員、作部径子委員、松本すみ子委員、井上良一委員、  
事務局（企画政策室長、企画調整課長、政策調整担当課長他）  
市 民（19 名）
- 

## 議 事

- ・委員長より会議の趣旨説明、委員紹介、長期計画についての説明の後、東部地区市民との意見交換が行われた。

境 : 18 ページ、基本施策 3 の（1）の 2 行目の「一時育成事業」の用語の説明がない。また、研究や検討の段階なしに「実施する」という記述になることに違和感を覚える。

19 ページ、基本施策 4 の（1）の「運営の一体化」は、第三次子どもプランにも同じ文言があり、議論の結果「運営主体の一体化」に文言が変更になったにもかかわらず、上位計画であるここで「運営の一体化」に戻っているのはおかしい。「子ども館あそべえ事業と学童クラブ事業は子ども協会に委託し」ともあるが、検討や研究の段階なしに「委託する」となる議論の飛躍に違和感を覚える。再検討、もしくは子どもプランに即した記述にしてほしい。

委員長：計画期間の違いもあり、長期計画には個別計画に書かれている以上のものは書かないというわけにはいかない。第四次子どもプランでの検討課題である。方向性は継続的なものと考えて。「一時育成事業」とは、親の緊急の事情で一時的に学童を預かることで、いずれ注をつける。運営の一体化、委託等については、1 つにするという意味ではなく、例えば専門的な職員があそべえと学童の両方を見るようにする等、保育の質を上げるという趣旨である。

緑 町：5ページに、長期計画に位置づけられていないと事業ができないような書きぶりがあるが、その位置づけは一体どの程度か。今回、第四次子どもプラン等、個別計画の記載がないが、載っていない計画はつくらないのか。誤解を招く書きぶり、説明や背景の欠落が多く、どうしてこうなったのか読み取れない。長期計画に書いてあることはすべて議会の議決を不要にしようとしているのか。長期計画のありようをもっときちんと説明してほしい。長期計画の位置づけが変わるといふ話はホームページに載せたり、計画案にきちんと書いてほしい。親切ではない。

委員長：今後10年の市の事業は、基本的には長期計画に従って計画的に進めることを前提にしている。個別計画はたくさんあるので、最終案では、現計画が何年度までで、それが終わったものは基本的に新しい個別計画をつくるということを一覧の形でお示しする。議会の議決に関しては、議会に長期計画条例が提案され、継続審議になっており、私たちがこうしてほしいという性格のものではない。条例をつくり、条例に基づいて計画をつくるのが順序だが、地方自治法の改正という外からの要素によって位置づけが変わり、少し複雑になっている。

吉祥寺本町：IVの基本施策5の(1)の「事業者、他自治体、国等との適切な連携」も大事だが、市民の不安や要望にも対応してほしい。より被曝を低減させるため、食品、土壌などの放射性物質の検査を十分に行い、市民の安心・安全を確保してほしい。住民の安心できる基準をつくったり、個々の判断を重視する立場をとってほしい。市で放射性物質の検査器を導入し、学校給食で使う食材や市民が希望する食品の検査等をするシステムをつくってほしい。

委員：地震の影響で策定委員会が休みだった期間があり、進行は2～3カ月おくられている。その間に状況が変わり、このあたりは討議要綱に入っていなかった案件を入れた。学校給食や保育園で使われる食材は一定の範囲は市で調査しているが、本当に安心なのかは暫定基準をもとに行動せざるを得ない。今まで意識しなかった知識を相当深く持たねばならない。どこまで調査をし、どのように予算措置をし、市民はどこまでしてほしいのか、これから意見を吸い上げていく。

境：平成22年8月18日に出した歴史資料館資料に対する市の資料では「歴史資料館については集客を目的とせず」、要するに倉庫にするといっているが、反発があり、22ページ最下行では「市民が利用可能なスペースを備えた歴史資料館」にするといっている。また、今、市民会館が私たちの唯一の生涯学習の施設だが、廃館にするといううわさがある。計画案と私たちが入手した資料は違う。きちんと見きわめて、そのようなことにならないようにしてほしい。

委員長：地域や市民のニーズは変わるので、これからの建物の使用や施設の機能は全体として考える必

要がある。これまで利用されてきた方の思い入れもあるので、慎重にすり合わせていく必要がある。ただ、歴史資料館について、集客を目的としなければ物置であるというのは極端である。個別の施設は地元の町内会と話が進んでいる部分もあり、これから具体的に相談していく。私たちが何かを隠して押し通す権限はない。要望を寄せていただき、よいものにしていきたい。

市 外：私は、長い間、武蔵野市で保育に携わって働いてきた。ニーズにこたえることは大切だが、定員を超過して保育園に子どもを受け入れることで、子どもや職員への影響を非常に危惧している。子どもたちが健やかに育つために何が必要か、具体化してほしい。認証保育園、無認可保育園等、公立でない保育園を建てたが、実態はどの程度つかんでいるのか。財政は豊かなので、子どもが安心して武蔵野に住み続けられ、成長でき、また引っ越してくるような、さらに出生率も上げていくような努力を率先してやってほしい。

委員長：武蔵野市は、これからも部分的に待機児童が非常にふえそうな地域がある。そういうところでどういう形で新しく保育所を置けるのか、長期的な検討をしている。子育てするなら武蔵野市という感じのまちづくりをしていきたい。ドイツの保育園、幼稚園では、建物の中に「人間が育つ環境は人間的でなければならない」と掲示してある。見習うべきだと思った。

吉祥寺北町：「地域リハビリテーション」という言葉は茫漠としている。実態として四長でどこまで進化したかを明示した上で、第五期長期計画でどこまで目指すのか示してほしい。

小地域完結型の福祉というのは、もう何十年も前からいっている。小地域の諸条件をどれだけ具体的に充実させていくかが大事である。参加、参画の量、質ともレベルアップ、地域住民の力の充実が大事である。学びを支援することを具体的に入れてほしい。

委員長：地域福祉総合計画という個別計画を並行して策定している。何をどこまでやるかについては、そちらに具体的に書かれると理解している。

委 員：武蔵野市の地域リハは、ほかと比べてすごいことをやろうと頑張っている。そうすると、それが「地域リハ」という言葉でいいのか疑問ではあるが、今から新しい言葉を考えるのは難しい。行政側には、市民に地域リハの実態をちゃんと伝えてほしい。いろいろな課題が複雑になり、法の中でうまく対応できない問題が吹き出している。市民が当事者として意識を持ち、自分の出番を見つけ、きずなを紡ぎ合いながら安心して暮らせる武蔵野市をつくりたい。

吉祥寺東町：住民と行政が協力する方法がわからず、トレーニングもない。皆で話し合い、合意点を見

出していかねばならない。市民活動の支援、そのための社会教育をしてほしいが、この20年、実現しなかった。それがないから、プレイスでも、武蔵野を愛する青少年を育てたいという目標は出てこなかった。皆で一緒にやっ払いこうという合意がない。そういう話し合いができる基盤をつくってほしい。

委員：すぐに結果が出るものばかりではなく、短期戦、中期戦、長期戦という時間軸の中で戦略を組む必要がある。武蔵野市は、コミュニティソーシャルワークという、地域福祉コーディネーターと住民と一緒に地域の課題を考え解決していく新しい技法を取り入れようとしている。ボランティア学習と福祉学習を進めていくことが計画に入っている。

吉祥寺本町：武蔵野市の長期計画条例は条例の体をなしていない。策定委員は読んだことがあるのか。福島原発事故はもっと大きく位置づけるべきだ。9ページ(2)の記述では弱い。原発の問題には今まで関心を持たず、避けて通ってきたが、脱原発社会に向け武蔵野市として議論を重ねるところにきちんと書くべきである。ここに書いてあることは昔からのことで、新味がない。

委員長：条例は読んで勉強しているが、こういう条例であるべきだというような立場ではない。

国民として国のエネルギー政策に関心を持ち、行動すべきだという考え方はあるが、エネルギー政策を地域社会で考えろというのは別の話であり、慎重に考えたい。

関前：郷土史会をやっている。歴史館、博物館、資料館等がないのは、武蔵野市等ごく少数である。都内では小学生等が親子で見学に来ている。本市では資料館をつくる準備室は10年以上前からあり、折衝もしているが、実現していない。西部図書館内に歴史資料館をつくることはありがたいが、スペースの活用に関してはぜひ我々の意見も取り入れてほしい。

委員長：歴史資料館の件、ご意見は承りました。

吉祥寺東町：社会教育を考える会で活動している。大人の教育は本当に大切である。生涯学習の講座は行われているが、学びながら課題を見つけ、合意し、解決していくことが必要である。23ページに「生涯学習情報の一元化・共有化を進める」とあるが、情報よりも、全体を見て、人々が課題解決に向かって力をつけていくことを大切にしてほしい。私たちが活動している中で、市民とこういう勉強がしたいと企画を持っていてもはねられることが多い。行政はニーズにこたえてほしい。

委員長：市民活動の担い手不足の問題を解決するには、学びと参加という歯車を回していく必要がある。

社会教育を文化・市民生活に入れ、社会教育と市民生活を一体で議論することは大きな心意気のつもりだ。そこが充実するよう議論を深めたい。

吉祥寺本町：地域コミュニティ活動の課題、問題解決力の低下がどの分野でも共通した課題となっているという指摘がある。問題、背景、解決策を具体的に提案してほしい。実際にやっている人は、新しいことに取り組み、話し合いながらいろいろな問題を解決している。コミセンや福祉の会は無償ボランティアだが、少しお金を出せばもっと優秀な人が呼べるのではないか。

委員長：コミセンやコミュニティ協議会によって大分様子が違うが、一生懸命やっている方が大変なのはどこも共通の事情だ。コミュニティの力、担い手を広げること等、市民で議論していきたい。

吉祥寺北町：第三次子どもプランはこの期間中に終わるので、第四次子どもプランをちゃんと策定するという一文を計画に明記してほしい。

委員長：個別計画については一覧表にしてお示しする。

女性：市内の民間保育園で働いている。保育サービスの充実について、保育、学童、学校といろいろなプランがつくられ、細切れの話し合いを積み重ねられているような不安を感じる。民間保育園は地域支援が大きな課題になっているが、子育てのネットが確立されていない。地域福祉ソーシャルワーカー等には期待している。

委員長：市立保育園を中心に地域の子育て相談等もしているが、広がらない面があるなら検討する。

桜 堤：小学生の放課後施策推進協議会の委員をしている。協議会は第三次子どもプランに基づいて設置されているのに、最上位計画であるこの基本計画がもう第四次に向かって話を進めているなら、協議会は何を議論すればよいのか。その部分の整合性は。

委員長：個別計画はそれぞれのタイムスパンで進行し、時間の長い長期計画と並行している。私たちはそちらの方向を察知しながら、あるいはまだ立ち上がっていないものは課題を少し先取りして書いている。長期計画だけでは物事は動かないので、役割分担していると理解してほしい。

吉祥寺南町：省エネルギー型社会で委員長は「慎重に」と答えたが、市民だけでなく国民全体が非常に深刻に考えているのに「慎重に」で終わるのか。もっときちんと発信していくべきではないか。

委員長：「慎重に」というのは、13万人の自治体の事業として何ができるか考え、きちっとフォーカス

しようということだ。東京都のように、埋立地に天然ガスの発電所つくったりはできない。

吉祥寺南町：ハードの面でなく、ソフトの面で。

委員長：提案してほしい。

吉祥寺本町：基本的な考え方や理念として原発のことを書いてほしい。「省エネ」ではなく「節電」とはっきりいうなど、政策の出し方は幾らでもある。また、後で個別計画をつけるという話があったが、この策定委員会が各個別計画を一体として長期計画につけるのか。

委員長：一体ではない。それぞれの個別計画の策定委員会が、それぞれの根拠に基づいてつくるものである。しかし、この課題をこの個別計画で具体的に検討すると書くのは、この長期計画の仕事である。原発の件は、議会の中にもさまざまな意見があり、行政計画の中では慎重に書く必要がある。

境：原発の放射能は、将来的には子どもたちに悪影響を及ぼす。被曝した子どもたちの健康をずっと見て行ってほしい。市の公園ではかろうとしたら、許可がないとはからせてくれなかった。非常に腹が立つ。日本には54もの原発があり、東京の近くにもある。そこが事故を起こしたら、また同じことが起こる。最も慎重に記入すべきである。

吉祥寺北町：武蔵野市の住民は全国に例のない市民参加を切り開いてきた。行政や関係機関の職員は地域に出て地域住民と一緒に苦勞し、勉強してほしい。この10年の市民の苦勞や積み上げてきたものを理解し、検証して書いてほしい。地域に総合相談所や協議機関をつくってほしい。地域のことは全体的につながりがあり、つながりを持って総合的に見ていく視点を入れてほしい。1ページの「つながりを広げよう」「環境意識を行動に移そう」「多様性を力にしよう」等の呼びかけに、とても清新な思いを抱いた。しかし、5ページ5行目にある「統制」などという言葉は戦時中を思わせ、ぞっとする。使うべきではない。

緑町：第四期では、案のときに策定委員が原案をつくっている。今回も原案をつくり、それに意見が言える場を設けてほしい。これから事業を書いていくとか注意書きを入れると聞き、我々が意見を言えなくなった段階で全く違う趣旨が書かれているのではないかと不安になった。議会に条例が継続しているのだから、策定は一たんとめてもよかったのではないかと。

第三次子どもプランは、今までの武蔵野市の中で一番きちんとしたPDCAになっていると思

う。第四期基本構想の実績と評価は、効果が何も書いておらず、進行管理と課題抽出である。第三次子どもプランを余りないがしろにしないでほしい。

第7期コミュニティ市民委員会の中で、私たち現役の父母が地域に何を求めているか等を研究してほしい。いろいろな報告書等ももっと尊重してほしい。

委員長：意見として承る。第四期の調整計画のときに原案をつくったというのは何のことかわからないが、今回の策定作業がこれまでと様子が違うということは基本的にはないはずである。

吉祥寺本町：19 ページの泉幼稚園とコミセンは役割分担を考えるという文言はおかしいと前回は指摘し、総務委員会で委員からも指摘があったのに、全く変わっていないのはなぜか。

委員長：委員会で再度検討する。

関 前：武蔵野市には市民博士制度があるが、個人満足で終わってしまい、観光ガイド、歴史ガイドになったり、研究会があつたりというメリットがない。うまく社会に役立てる方法はないか。

吉祥寺東町：17 ページではっきりと子ども自身の育ちを支援すると位置づけたことは一大進化である。男女共同参画計画の推進がきちっと載ったこともありがたいが、性差をなくした立場で物を見るということをうまく表現してほしい。それなしには、幾ら環境を整えても何も変わらない。市がこういう姿勢でやっていくとうまく表明するためには、言葉を大事に表現してほしい。

委員長：参考にさせていただく。

吉祥寺本町：19 ページ、基本施策5の「自分の考えや意志と表現しながらも、他者を理解し受け入れる力を身に付けていく」を具体的に目指した項目はどこか。20 ページ(1)の「個性の伸長」とはどういうことか。私は1人1人が自分らしさを大事にしてのびのびと過ごしてほしいという思いで子育てをしているが、そういうことは余り見えない。

副委員長：前者は、学校教育の全体が結びつく形で総合的な子どもの力をつけていきたいという全体を包括する考え方である。「個性の伸長」は、子どもそれぞれが持つ関心や能力に寄り添った形で教育環境を整えていくことである。「個性」という言葉は難しいので、表現は検討する。

吉祥寺本町：20 ページ(1)には習熟度別指導は書かれているが、少人数学級は書かれていない。習熟度別指導と少人数学級は相反しないと思うが、少人数学級は検討の対象にもならないのか。

副委員長：少人数学級と少人数教育があり、武蔵野市は少人数教育は一部行っている。少人数学級は、子どもの数が減ることによる問題も生じるので、慎重な議論が必要である。

吉祥寺本町：いろいろな意見があるのはわかるが、「継続検討」等の文言が入ってもいいのではないか。

副委員長：検討する。

吉祥寺本町：西部図書館と資料館の検討に入っていることについて、地域の方を中心にといわれていたが、歴史資料館の建設に興味のある全市の人を対象にしてほしい。

委員長：最終的には全市的に議論されていく。市の施設なので、一部で決めるということは絶対はない。

緑 町：少人数学級については、もっと人数を減らしてほしい。小学校1～2年生あたりは、学習の前に、学校が自分の居場所なのだとして認識させることが先だと思う。先生を目を届かせ、先生との適度な距離の中で子どもの集団をきちんと形成させ、居場所を確保することが大事である。違う意見もあるので、「検討する」「検証する」という文言はぜひ入れてほしい。

副委員長：一番懸念しているのは、少人数学級にしたが教員の数は余りふえず、学校に余裕がなくなり、子どもたちの環境も悪くなるというストーリーである。無限に先生がいて無限に教育の資源があれば少人数もよいが、所与の状況がある中でどうバランスさせていくかが非常に難しい。

緑 町：まず子どもたちの環境をどうするのかという理想があり、では先生方をふやそうという話になればいい。検討してもいいのではないか。

委員長：意見として承るが、少し考えさせてもらいたい。

女 性：財政のページには、経常収支率が90%を超えた場合、人件費は給与改定を見込まず、定数適正化計画による職員の数の減少等とまた書かれていたが、方向性が違うのではないかと強く思う。被災地では、市の職員が団結して非常時に当たったという話も聞く。他自治体では、子育て世代を呼び込むために住宅補助を出したり、いろいろと努力されている。武蔵野市は市財政が豊かなのだから、人を切るばかりでなく、もっと積極的な財政をしてもよいのではないか。

——— 了 ———